

# 素材からつくる造形活動の研究

小野 修平<sup>a</sup>

<sup>a</sup> 湘北短期大学保育学科

## 【抄録】

本研究は、オリジナル色画用紙を用いた作品制作の実践を提案し、素材からつくる造形活動の可能性を見出すものである。対象となる学生に対しオリジナル色画用紙と通常の色画用紙を用いた実践についてアンケート調査を行うことで、素材から作る造形活動が制作者の表現や創作意欲に与えている影響を明らかにした。

## 【キーワード】

造形活動、素材、画用紙

### 1. はじめに

湘北短期大学保育学科「造形表現」の授業では、“造形ノート”と呼ばれるスケッチブックを用いた作品集の制作をベースに授業を展開している。全30回の中で修得する各種造形技法や、身近な素材を使ったおもちゃづくり、教材研究の記録等を各回見開きの2ページにまとめることで、「作って終わり」ではなく、生涯活用できる教材集としての役割も担えることを目的としている。この見開きの2ページは、主に学んだ技法を使って制作した作品ページと、ワークシートを基にした解説ページから構成されている。作品ページの構成方法は基本的に自由としているが、試した技法を活かして一枚の作品にすることを課題としている。例えばデカルコマニー<sup>1)</sup>を習得した場合、この技法を試した紙をスケッチブックに貼るだけではなく、その形や模様をみため、加工し、他の素材等も組み合わせ一枚の作品となるように（あるいは保育室の壁面制作を想定した構成のように）、学生自らが表現の工夫をする。仮にデカル

コマニーの形や模様を蝶にみためたなら、イメージした形に添って切り取り、蝶の羽にみため、目や体を加えたり、背景にお花畑を表現したりして、1ページを完成させる、といった様子である。蝶の触覚にモールを用いる学生もいれば、背景をちぎったお花紙で表現する等、そこには技法を活かした個々の表現が見られるようになる。

こうした作品ページを完成させるにあたり、学生が最も頻繁に用いる素材が色画用紙である。保育者を志す学生にとって、色画用紙はとてもなじみやすい素材だ。例えば園内での造形物制作にあたり、保育者が幼児の制作した作品を壁面に展示する際の装飾に使ったり、幼児が切ったりちぎったり貼ったりの工作から直接絵を描く絵画制作まで、その用途は様々である。均質な色味と種類の豊富さ、加工のしやすさから、非常に有効な素材と言える。一方で、こうした特性からか、上記の様に頻繁に用いられることで、表現方法がマンネリ化してしまう傾向も挙げられる。例えば、雲は常に真っ白の画用紙、木の幹は茶色で葉っぱは緑、均質なピンクのうさぎや水色のぞう等、ひとつの

概念を強く押し出した例は度々みられる。しかしこれらの表現に偏ってしまっただけでは素材への探求心、とりわけ色彩表現の可能性の理解を狭めてしまいかねないと、筆者は考える。また、それらを日常的に目にする幼児への影響も考慮しなくてはならない。

こうした背景を踏まえ、「造形表現」の授業では、オリジナル色画用紙と通常の色画用紙を用いた造形ノートの作品制作を実践している。オリジナル色画用紙とは、ローラーやスタンプを初めとした各種描画材などで、白い画用紙に直接色味を着彩した色画用紙の事である。既製の色画用紙と同様に用いることで、学生自身が多様な表現方法を比較し、色画用紙の特性や、有効な活用方法への理解を深めることに繋がることを期待して取り入れている。何より自身で作りに上げた色味の素材を用いる制作は、その後の感性の高まりや表現力の育成に重要な役割を果たしている、と、筆者は考える。

## 2. 研究の内容と目的

本研究は、造形ノートの制作における①「オリジナル色画用紙を使った表紙づくり」と、②「通常の色画用紙を使った裏表紙づくり」をアンケート調査から比較することで、素材からつくる造形活動が、色画用紙を用いた表現の観点から制作者の表現や創作意欲に与えている影響や効果の一端を明らかにするものである。制作内容としては、F4スケッチブックの裏表紙には自身の「氏名」とイメージを、表紙には「造形ノート」というタイトルとイメージを、それぞれ自由に構成するというものである。用いる技法は双方ともに画用紙を切り貼りするコラージュを基本とするが、表紙制作には既製の色画用紙を、裏表紙制作にはオリジナル色画用紙を基本として用いることとしている。この表紙制作と裏表紙制作を行う意義の1つ

は、ほぼ同一の制作の中で、既製の色画用紙を用いた時と自身で制作したオリジナル色画用紙を用いた時の表現効果の違いを実感できる点であると考えている。こうした実践の結果を考察することで、この活動の新たな意義や可能性を見出したい。

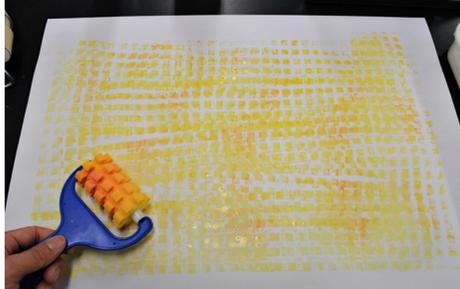
今回対称となる学生には、授業の一環として事前に色に関する基礎知識（色相・明度・彩度、それらを文字として効果的に活用するための可視性・可読性等）について講義している。そのため、表紙のタイトルになる「造形ノート」という文字のみ、通常の色画用紙を使用することが望ましいとしているが、これらの事項に配慮できれば、オリジナル色画用紙や他の描画材を用いても構わないとしている。また、研究に関する倫理的配慮として、学生全員に本研究の内容と目的を説明した上で、アンケートへの参加は任意であること、参加した場合も匿名の上、本研究以外に使用しないことを周知した。その上で、同意の得られた対象者のみ、調査を行った。

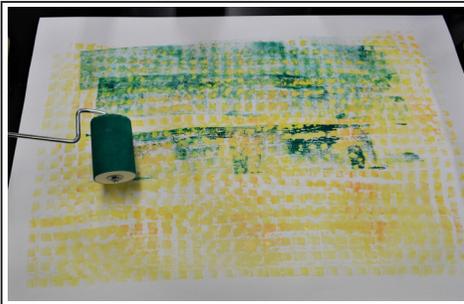
## 3. オリジナル色画用紙の制作方法と特性

自身で制作した色紙によるコラージュ作品は、エリック・カール（Eric Carle 1929- アメリカ）<sup>2)</sup>のものが代表的だろう。彼の書籍を出版する偕成社のオフィシャルサイトでは、筆等の描画材にアクリル絵の具を使った制作方法が解説されている。<sup>3)</sup>「造形表現」の授業では、描画や着彩における取り組みやすさについて幼児の視点から考えることを重視し、ローラーやスポンジスタンプにポスターカラーを使った制作方法を展開している。以下にその方法を提示する。

以上がオリジナル色画用紙の制作方法の一例であり、この表現の特性は大きく分けて2つであると筆者は考えている。

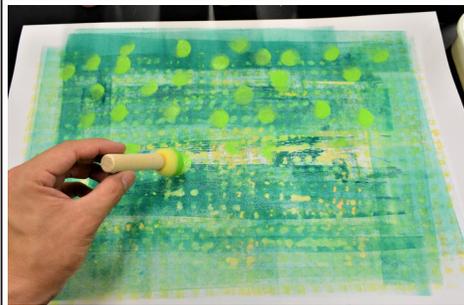
表 1. オリジナル色画用紙の制作方法

オリジナル色画用紙の制作方法：緑色の例	
<p>○制作にあたっての事前説明事項</p> <p>オリジナル色画用紙の制作にあたり、学生には事前にエリック・カール、レオ・レオニの絵本の紹介を始め、この色彩表現とコラージュの特性について講義している。その上で、以下の点をふまえるように周知した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1つの色を表現するにあたって、表現したい色と仲の良いと考える色であれば、何色でも用いてよい。</li> <li>・ 1つのローラーやスタンプに複数の色を混ぜても用いてもおもしろい。</li> <li>・ あまりにも多くの色や絵具量を用いると、濁りや破損に繋がるので注意する。</li> <li>・ 赤系、青系、緑系、うすだいたい系、紫系、茶色系、黒系の7色は必ず作る事。</li> <li>・ 上記7色をグループで協力して作り、分けて使う事。</li> <li>・ 特別に必要な色は、自身で制作しても構わない。</li> <li>・ 用意された道具以外の表現を望むものは、必要に応じて筆を用いたり、他の描画材で引っかいたりしても構わない。</li> <li>・ ポスターカラーは不透明水彩であることから、基本的には色を塗り重ねると、下地の色を隠す効果がある。(水分量によってはそうではない場合もある。)</li> </ul>	
	<p>○使用する道具</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スポンジローラー（硬質、軟質）</li> <li>・ スポンジスタンプ</li> <li>・ ポスターカラー（12色）</li> <li>・ 画用紙（4つ切り）</li> <li>・ バット</li> </ul>
	<p>①1色目の着彩</p> <p>軟質の凹凸スポンジローラーを使い、黄色とオレンジ色と白色をランダムに着彩していく。(緑色の色画用紙をつくるからといって、初めから緑を用いなくても良い。ここで用いた黄色・オレンジ色・白色は、いわゆる緑色と「仲の良い」と考える色である。)</p>



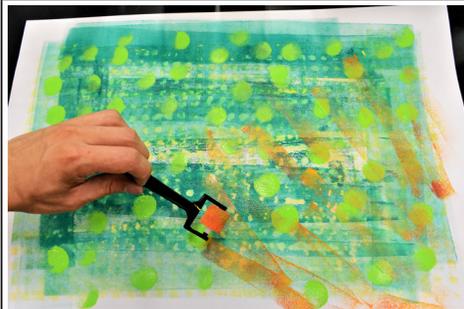
② 2色目の着彩

硬質のスポンジローラー中を使い、濃い目の緑色を着彩していく。下地を覆う場所や、下地と混ざり合う場所が生まれ、色彩に深みが出る。ローラーを回転させればさせるほど、色は混ざり合い、落ち着いた画面となる。



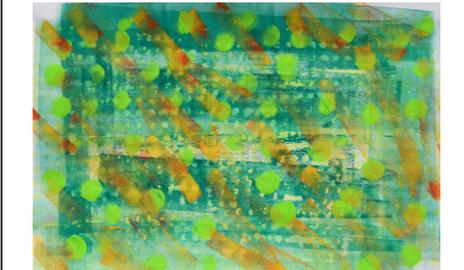
③ 3色目の着彩

スポンジスタンプで黄緑色を着彩していく。新しい形が加わることで、画面の複雑さが増していく。スポンジスタンプは押す回数や力の強弱で、その形、絵の具の着色具合も変わるため、単調な画面になりにくい。



④ 4色目の着彩

軟質のスポンジローラー小を使い、赤色とオレンジ色をランダムに着彩していく。緑系の色とは補色関係に近い組み合わせも、ローラーを用いることで混ざることなく画面に乗るため、全体の色彩に広がりが生まれる。



⑤上：完成したオリジナル色画用紙

下：部分拡大図

複数の色や形が重なり、ところどころで混ざり合ったり隠しあったりすることで、元の色と形に変化が生まれ、複合的でありながらも統一感のある画面が表現されている。それでいて、色彩は「緑色」系であることを視覚的に伝える役割を果たしている。

部分拡大図からは、それぞれの色が重なることで調和しようとしている場所や、はっきりと分かれている場所が見られる。また、ところどころのかすれや描画材の痕跡のすき間から、下地の色が除くことで複合的な画面がどのように構成されているのかを確認することができる。



1つ目の特性は「1つの色彩を構成する要素が色と形の複雑な組み合わせによる点」である。我々はイメージを彩るために用いる色を、多様な視点で捉え表すことが出来る。例えば一色をどこまでも均質に塗り広げた、緊張感や安定感のある表現がある。あるいは他の色と溶け合い変化するように生まれるグラデーションの幻想的な表現や、様々な色の線や形が痕跡となって重なり合うことで生まれる混沌とした表現もある。そしてこの混沌とした表現は時に不規則で、乱雑で、不調和にも思えるが、そうした空間の中でしか表すことのできない色合いが存在するのである。今回の実践で用いているローラーやスタンプによる技法は、こうした表現が生まれやすい。なぜならば、ローラーやスタンプは自らが持つ形や接地面の微細な凹凸を、色彩の痕跡として残すことに長けているからである。さらに言えば、筆やペン等の描画材と比べ、筆圧による線の強弱や動き、形の再現性にみられる、作者の意思によった表現の調整が容易ではないため、偶然の痕跡が生まれやすいという事である。また、絵の具の量にもよるが、⑤で示したようにスポンジスタンプやローラーが表す痕跡には、かすれによる色のすき間が現れやすい。このすき間から下地の色が覗くことで、ただの塗り重ねにならず、絶妙な色彩の調和が生まれている。筆の様に色同士を引きずったり混ぜたりする動作も少なく、あくまで色の上に色が重なることが続くので、補色であっても画面が濁りにくいのもポイントである。こうした特性の発揮により、作者自身が想う緑色をベースとし、そこに表内の①で示した「仲のいいと想う色」を様々な描画材で塗り重ねていくことで、⑤の完成図のように、複合的でありながらも視覚的には「緑」というひとつの色を思わせる美しい色彩表現が生まれるのである。

2つ目の特性は、上記で述べた1つ目の特性が

発揮されることで「色と形の組み合わせによるみだてに繋がりの点」である。この「みだて」とは、いわゆる「○○のように見える・感じられる」ということだ。端的に述べると、今回の制作で現れた複合的な色や形の組み合わせが、実在する別の何かにみだてることに適していると制作者が考え、その表現をコラージュで実践し、それを見た鑑賞者にもその思いが伝わる一連の流れを示している。例えば、我々の身近な場所では、自然界でそれを探ることが出来る。人は「海の色は何色か」と問われれば、多くの場合「青色」や「水色」と答えるだろう。そしてどこまでも広がる青い水平線を見て美しいと感じる人は多いのではないだろうか。しかしその「青」もまた、様々な要素で成り立っていることに気づく。水面を見れば波が立ち、模様が現れ、ところどころ色味も異なっている。泡や飛沫はどちらかという和白く目に映り、水面下が砂地の場所は緑がかったり、藻や岩があるところは黒に近く感じたりすることもある。海の色は、こうした様々な要素が入り混じることで生み出された「青」や「水色」なのである。当然こうした要素は偶然によるものが多く、先に述べた偶然の痕跡による表現とも通ずるものがある。他に例を挙げれば、様々な色や形の砂粒がこぼれた地面や、紅葉し、虫に食われ腐敗の始まった落ち葉もまた同様だろう。この制作で目指すみだてへの繋がりは、こうした自然界の写実的再現ではなく、我々の身の回りに存在する自然やモノを構成する、色や形の複合的な状態を、あくまで1つの要素として絵画的に取り入れているという事である。

学生たちは各々に、青をベースに白や水色を組み合わせ、偶然できた形を雲にみだてることで空を表現したり、赤や茶色や紫を様々な形のスタンプで重ねることで絶妙な風合いのレンガにみだてたりと、その様子は十人十色である。こうした作

品からは、先に述べたように1枚のオリジナル色画用紙の状態では不規則で不調和にも見えたものが、コラージュを用いて形が生まれ、作者のイメージに沿って表現されたときに、この技法でしか表すことのできない美しさが現れるのである。次項でその作品の一部を提示するので参照してほしい。

#### 4. アンケート調査の結果と考察

このアンケートは、授業「造形表現」の課題における表紙制作「オリジナル色画用紙を使った表紙面（造形ノートというタイトルの面）の作品制作」（以下、「表紙制作」と、裏表紙制作「通常の色画用紙を使った裏表紙面（氏名の面）の作品制作」（以下、裏表紙制作）両方の完成後、受講する学生に対して実施した。表2は、その作品例である。<sup>4)</sup>

研究の目的から設定した設問の観点は、制作中の創作意欲と、完成作品の満足度の2つに置いた。

表2. 学生作品の例



設問は2つあり、設問【1】では2種類の制作に対してそれぞれに、1「とても創作意欲が湧いた」・2「創作意欲が湧いた」・3「創作意欲はわかかった」・4「全く創作意欲は湧かなかった」の4段階で回答してもらうとともに、その理由を記述できる欄を設けた。（ただし、創作意欲の理

由を問うものなので、造形的観点からの記述のみとした。）設問【2】では2種類の完成作品を比較した場合、どちらの方が満足度が高いかを2択で回答してもらうとともに、その理由を記述できる欄を設けた。（こちらも、上記同様に造形的観点からの記述のみとした）アンケート調査の概要は、

表3の通りであり、欠損データや無効回答がない125枚を研究対象とした。続く図1は設問【1】における各項目の人数分布を表し、図2図3は、設問【1】における各項目の選択者が占める割合で表したものである。

表3. アンケート調査の概要

調査場所	調査対象	調査時期	調査数
湘北短期大学	保育学科 1年生	2019年7月	配布枚数：132 有効回答数：125

これらの結果から、「表紙制作」は120 / 125人 = 96%、「裏表紙制作」は114 / 125人 = 83%と、両方高い割合で創作意欲をもった制作が出来る。

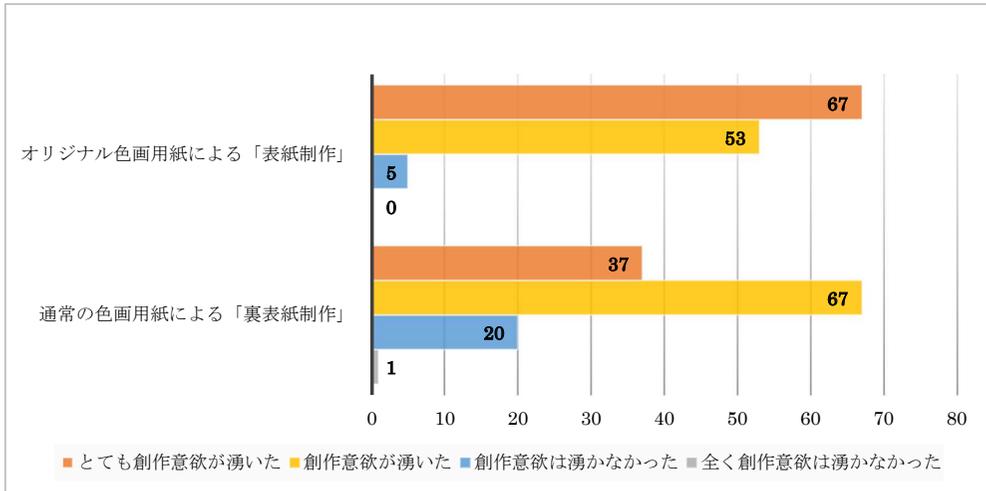


図1. 設問【1】における各項目の人数分布

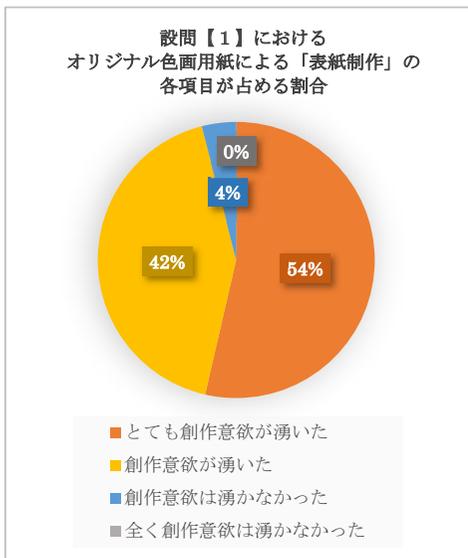


図2. 設問【1】におけるオリジナル色画用紙による「表紙制作」の各項目が占める割合

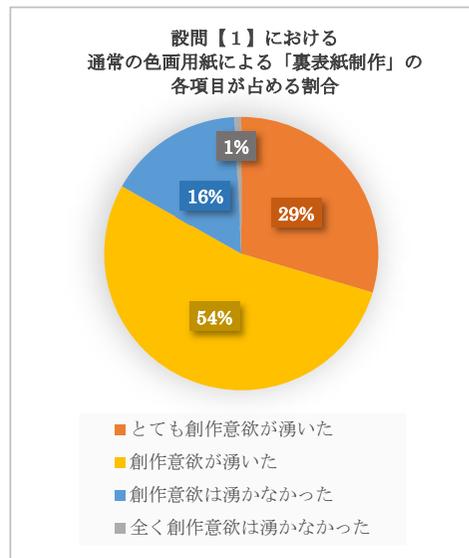


図3. 設問【1】における通常の色画用紙による「裏表紙制作」の各項目が占める割合

ていることが分かる。ただし各項目の結果に着目すると、「とても創作意欲が湧いた」人数の割合は「表紙制作」が54%なのに対し「裏表紙制作」29%と、大きく差が見られることが分かる。さらに、「創作意欲は湧かなかった」・「全く創作意欲は湧かなかった」を選択した学生においては、「表紙制作」は5 / 125人 = 4%に対し「裏表紙制作」は21 / 125人 = 16%と、増加していることも分

表4. 設問【1】「表紙制作」に関する各項目を選んだ理由記述欄のまとめ

オリジナル色画用紙による「表紙制作」	
「とても創作意欲が湧いた」または「創作意欲が湧いた」の項目に対する理由	
分類	理由（代表的な意見：以下同）
オリジナリティに関する内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界に一つだけのオリジナルなのでいいものにしたという思いが一層強く持てるから。</li> <li>・他の人にはない自分だけのオリジナルを作れたから。</li> <li>・オリジナルというのが特別感があり、作品を作りたいと思わせてくれ、楽しかった。</li> </ul>
制作工程に関する内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画用紙を作る時点からワクワクした気持ちがあった。</li> <li>・赤の色でも少しオレンジが入っていたり、模様が入る事によって印象が変わるのでどれを使おうかなど考えるのが楽しかったから。</li> <li>・1枚の画用紙でどこを切り取るかによって色のイメージが違うので、考えるのがとても楽しかったです。</li> </ul>
アイデアや想像力に関する内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つ一つ違う画用紙で、想像性やイメージがふくらんでよかったです。</li> <li>・いつもの画用紙と違うからアイデアが出てきた。</li> <li>・どんなデザインにするか考えるのは大変だったけど、思いついてからはどんどんアイデアが浮かんできて楽しかったから。</li> </ul>
共同性に関する内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が作ったオリジナルの紙で制作する作品は、世界に一つだけしかないからとてもワクワクした。</li> <li>・表紙制作はクラスで作った素材を使用しての制作だったので、その沢山のデザインからイメージを湧かせることができたから。</li> <li>・みんなでオリジナル色紙を制作し、それを利用して作るのにより楽しく取り組むことが出来た。</li> </ul>
その他の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリジナル画用紙で作ることによって色がたくさんあり綺麗になったから。</li> <li>・自分たちでカラーの画用紙から作ったため、それを活かして作ろうと思えた。</li> <li>・色がオリジナルでも模様があたりすることで実在する動物とかをよりリアルに作れる。</li> </ul>
ネガティブな要素を含む内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色や模様がある事から創造できる幅が狭かったように感じました。</li> <li>・カラフルでどう活かすか迷ってしまった。きれいな色でワクワクはした。</li> <li>・意欲は湧いたが、限られた色しかないのでデザインのアイデアがなかなか浮かばず少し苦勞した。人気の柄はすぐになくなってしまったり自分の思う色じゃなかったりという点も少し大変だった。</li> </ul>
「創作意欲は湧かなかった」または「全く創作意欲は湧かなかった」の項目に対する理由	
理由（代表的な意見）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えるのが難しかった（デザインを）良い画用紙がなかった。（色が好みなのがあった）</li> <li>・一番最初というもあり、どうしたらいいのかよくわからなかった。</li> </ul>	

表 5. 設問【1】「裏表紙制作」に関する各項目を選んだ理由記述欄のまとめ

通常の色画用紙による「裏表紙制作」	
「とても創作意欲が湧いた」または「創作意欲が湧いた」の項目に対する理由	
分類	理由（代表的な意見：以下同）
画用紙の特性に関する内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色の濃淡がはっきりしているので強調したい部分をうまく表現することができたため。</li> <li>・普段使う画用紙で色が1色なため考えやすかった。</li> <li>・表紙とは違い模様などないため、自分の思ったようにうまくいった。</li> </ul>
制作工程に関する内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっとこうしたい、ああしたいと考えて配色や大きさも工夫したいと考えたから。</li> <li>・単色で柄がないからこそ「色使い」を大切にしたい。色彩の授業をしたから補色などを考慮した上で楽しめた。</li> <li>・自分の好きなように作業ができました。</li> </ul>
アイデアや想像力に関する内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージを思い浮かべ、色を決めるのがとても楽しかったからです。</li> <li>・イメージが湧いていたので、通常の色画用紙だとイメージのまま作れるので良いと思いました。</li> <li>・全部自分が考えて作ることができ、テーマが無く、これを使って作るというルールもないので、自分の好きに作ることができて楽しかったので、1にしました。</li> </ul>
その他の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作りやすくシンプルに出来てよかった。</li> <li>・初めての制作活動で、身近な画用紙を使うことに抵抗は無かった。しかし、色が限られているため、形で工夫をするべきだと思った。</li> <li>・自由に自分の思いのままに制作することができてとても楽しかったから。</li> </ul>
ネガティブな要素を含む内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリジナルと比べて画用紙の色が決められているので、表現するのは自分の自由な表現に制限されているようだった。</li> <li>・皆と同じ画用紙で、自分らしさ、自分なりのアレンジをするのが難しかったから。</li> <li>・最初の授業での制作だったため、デザインもなかなか思い浮かばずどうしていいかわからなかったから。</li> </ul>
「創作意欲は湧かなかった」または「全く創作意欲は湧かなかった」の項目に対する理由	
理由（代表的な意見）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通過ぎて想像するのに時間がかかりました。</li> <li>・どのようにくふうするのかヒントがどこにもなかった。単色のみだったのでオリジナル感が出なかった。</li> <li>・いつも見慣れている色の画用紙なので、アイデアが思い浮かばなかった。</li> </ul>	

かった。こうした結果の背景を考察するため、各項目を選んだ理由の記述欄をまとめたものが、表4、表5である。

まず、「表紙制作」の結果について考察する。アンケート結果を集計し、制作者の創作意欲に繋

がった要因を分析すると、大きく分けて6つの要素が見られた。1つ目は「オリジナリティに関する内容」である。これらの回答からは、制作者が他の人と違う表現を望み、自分の作品に特別感を出したいという想いにオリジナル色画用紙が応え

ることで、創作意欲に繋がっていることが読み取れる。また、こうした意見に多く使われていたワードに「世界に一つ」や「自分だけの」といったものが挙げられた。2つ目は「制作工程に関する内容」である。これらの回答からは、色画用紙を制作すること自体の楽しさが、その後の創作意欲に繋がる事や、制作した色画用紙が持つ色や形等の要素が、素材を選ぶ楽しさに繋がっている事が読み取れる。3つ目は「アイデアや想像力に関する内容」である。これらの回答からは、画用紙の種類や要素の豊富さが制作者の発想を刺激することで、新しいイメージの想起に繋がっていることが読み取れる。4つ目は「共同性に関する内容」である。これらの回答からは、オリジナル色画用紙の基本色をクラス内の分担制作にしたことが多様な影響を生み出していることが分かった。まず良かった点としては、他者が作り出した色彩や模様などの要素が、それを選んだ制作者の発想の刺激となっていることである。さらに、個の制作に集中することが多い造形表現活動において、造形素材を共同で作ることがクラスの一体感や特別感を含んだ、新たな制作の楽しみに繋がっている点も重要である。この内容に関しては、筆者の想定していなかった効果であった。こうした共通の表現の中で生まれる相互作用によって、自己の表現がさらに豊かになっていくことは、保育所保育指針解説を始めとした各種要領解説でも取り扱うべき内容として記されており<sup>5)</sup>、将来保育者を目指す学生がこうした一連の流れを体験することは、非常に有意義な機会になったと考える。これら以外のポジティブな意見は、5つ目の「その他の内容」としてまとめた。これらの回答からは、色数の増加による表現の充実や、素材を作った経験、実在するものへの見立てやすさが、オリジナル色画用紙を活かすための意欲に繋がっている事が、少数ではあるが貴重な内容として読み取れた。

一方で、創作意欲には繋がったが、その理由に「ネガティブな要素を含んでいる内容」も複数見られた。これらの回答からは、色画用紙の色数の増加や模様の出現が、かえって制作者のアイデアや想像の幅を制限してしまった結果を見ることが出来た。合わせて、創作意欲へ繋げることが出来なかった制作者の意見も同様に、表現の難易度を上げてしまった点がその背景として挙げられる。個々の表現の必要に応じて通常の色画用紙と織り交ぜることの提案や、自身の欲する色彩の表現方法の例示など、指導者として改善の余地がある。これらの内容は5%と少数ではあるが、重要な意見として今後の研究に活かしたいと考える。

次に、「裏表紙制作」のアンケート結果について考察する。こちらも同様に、制作者の創作意欲に繋がった要因を分析すると、大きく分けて5つの要素が見られた。1つ目は「色画用紙の特性に関する内容」である。これらの回答からは、一般的な色画用紙の均一な色調を効果的に活用することで、制作者のイメージに寄り添った表現を実現できていることが、創作意欲に繋がっていると読み取れた。2つ目は「制作工程に関する内容」である。これらの回答からは、通常の色画用紙は単色であるからこそ表現の工夫の余地があり、その試行錯誤が制作者の創作意欲に繋がっていることが分かる。さらに3つ目の「アイデアや想像力に関する内容」からは、シンプルな色画用紙は制作者の思いに率直に答えることができる重要な素材であることを、改めて確認することができた。また、4つ目の「その他の内容」において、色がシンプルであるという特性が、それを活かした形の工夫を凝らすという創作意欲に繋がっているものもあり、少数派ではあるが貴重な意見として読み取れる。こうした回答に多く使われていたワードには「自由」、「シンプル」、「好きなように」等が挙げられ、表現活動にとって大切な要素である“自

由度”の高さを、制作者が根源的に求めていることが伺えた。

一方で、裏表紙制作も創作意欲には繋がったが「ネガティブな要素を含む内容」もいくつか見受けられた。これらはオリジナル色画用紙の制作時と相反するように、通常の色画用紙が作品にとって個性や特別感を出しにくいと感じていたり、素材から受け取るアイデアのきっかけに乏しいと感じていたりすることが読み取れる。合わせて創作意欲へ繋げることができなかった意見も同様に、あまりにも通常の色画用紙に触れる機会が多いことで、制作自体を魅力的に感じていないと思われる意見がいくつか見られた。比較的少数派の回答ではあるが、造形活動における通常の色画用紙の在り方を再検討する上で重要な意見である。また、補足にはなるが今回のアンケートでは制作課題の順序に関する意見もいくつか見ることができた。造形表現の授業では、「裏表紙制作」が前期15回

の前半、「表紙制作」が後半に設定されている。色彩に関する講義の流れを汲みでのことでもあるが、これにより造形活動に慣れた「表紙制作」の方が意欲的に出来たという意見である。こちらも比較的少数派の回答ではあるが、授業全体の流れを汲みながら1つ1つの課題を学生の目線に立ってより効果的に提案していくための判断材料といえる。

最後に設問【2】の結果から考察する。まず、今回の2つの制作を比較して、満足度が高いと感じた制作者の分布は図4の通りであり、その割合を図5で表した。

この結果からは、103 / 125 人 = 82%の制作者が、オリジナル色画用紙による「表紙制作」の作品の方が満足している事が分かる。一方で、通常の色画用紙による「裏表紙制作」の作品の方が満足した制作者は22 / 125 人 = 18%だった。こうした結果の背景を考察するため、各項目を選んだ

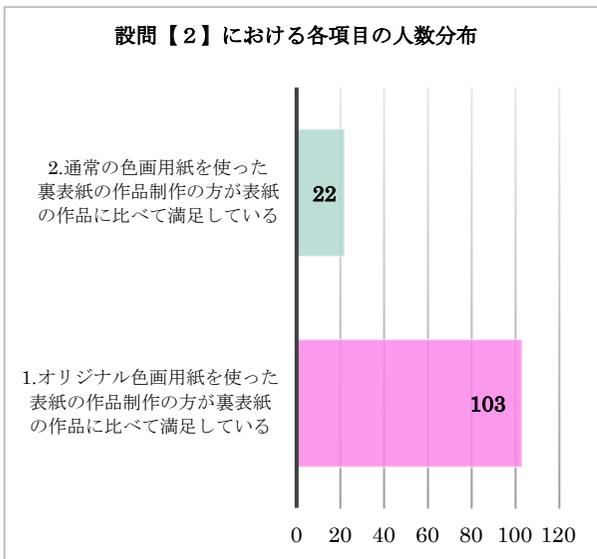


図4. 設問【2】における各項目の人数分布

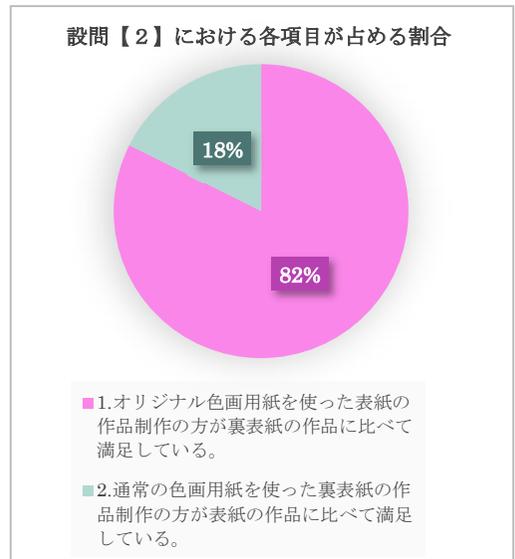


図5. 設問【2】における各項目が占める割合

理由記述欄をまとめたものが表6である。これらの回答からは、「表紙制作」において素材からつくったことが自身の作品のオリジナリティを高めることに繋がった点、通常の色画用紙では表すことができなかったオリジナル色画用紙の要素が、制作者の表現に寄り添ったり、イメージの幅を広げたりする要因の1つとなっている点が、多くの制作者の満足度を高めた結果に繋がったことが伺えた。また「裏表紙制作」においては、通常の色画用紙という素材を活用する中で制作者が考える自由な表現の達成が、そのまま完成作品の満足度に直結している様子が伺える。また、オリジナル色画用紙の制作工程、つまり素材から作ることを楽しいと感じていたり、完成した画用紙の色彩を綺麗と感じていたりするものの、それらの要因も作品として活かす上では表現の制約となってしまうケースがあるという事実が、改めて浮き彫

りになっていると言えるだろう。

## 5. 研究の成果と今後の課題

本研究では、素材から作る造形活動の可能性を見出すため、保育者を目指す学生にとって身近な造形素材である色画用紙に着目し、その表現と活用の方法を提示した。さらに、色画用紙の色彩を自ら制作する造形活動が、その後の表現にどのように影響しているのかを調査することができた。結果として、調査対象である学生の内8割を超える者が、オリジナル色画用紙を使った作品に満足していることが分かった。さらに、この活動が作品制作に対する創作意欲に繋がったと感じている者は9割を超えていることも分かった。その理由として挙げられたものの中には、自作のオリジナリティの向上や特別感の獲得、他者との差別化を

表6. 設問【2】完成作品の満足度に関する各項目を選んだ理由記述欄のまとめ

2つの制作の比較	
オリジナル色画用紙による「表紙制作」の方が、満足度が高い理由	
理由（代表的な意見：以下同）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・絶妙な色合いの画用紙を自分の好きなイメージするもの上手く使づけることが出来たから。通常のモノよりオリジナリティがあるから。</li> <li>・画用紙のみでは葉の線を表すことができなかったで、オリジナル画用紙でよかった。</li> <li>・画用紙から自分で制作し、表紙を制作したので満足度が高い。また、唯一無二の色づかいなので満足している。</li> <li>・オリジナルを用いることで沢山の案が生まれたので、満足感はとてもありました。不思議な色の組み合わせもとても楽しかったです。</li> <li>・イメージと違うものを作れたり、「もっとこうしたい！」と想像力が湧いてきて楽しかったです。</li> </ul>	
通常の色画用紙による「裏表紙制作」の方が、満足度が高い理由	
理由（代表的な意見：以下同）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の取り入れたい色を取り入れることができ、思い通りの作品をつくることができたから。</li> <li>・表紙のように模様があると逆にやりづらかった。色はきれいだけれども…。</li> <li>・好きなものを自由に作れてとても満足しています。</li> <li>・色の組み合わせなどをそんなに注目することが無かったため、満足しています。</li> <li>・思っていた通りにできたので。表紙は工程が楽しかったのですが、しっかりとしたイメージがなく、思ったものと程遠かった。</li> </ul>	

図ろうとする内容が多く、こうした人が自己表現する上での根源的欲求に対して、オリジナル色画用紙が持つ多くの要素が、重要な役割を果たしていることも明らかにすることができた。さらに、1枚の画用紙に含まれる多様な色彩や模様が、制作者のアイデアを刺激したり、制作過程を楽しく感じたりすることに繋がっている事例も、改めて確認することができた。また、1クラスで協力して、様々な色彩のオリジナル色画用紙を制作することは、他者の表現から触発される好機となり、自己表現の追求であると同時に共同制作であるがゆえの特別感を得ることに繋がっていたことも、この制作の有用性の1つであると考えられる。こうした研究結果から、「素材から作る造形活動」はその後の作品制作を行う上で創作意欲の向上に大きく影響し、完成作品の満足度を高めるためにも重要な役割を担っていると言えるだろう。

一方で、本研究結果から挙げられる課題としては、表現の自由度をどう捉えるのか、指導者としてそれを制作活動の中にどのように設定していくのか、改めて考え直していく必要があるということである。アンケートの結果からは、オリジナル色画用紙が持つ多くの色彩や模様などの要素が、かえって表現の制約になっているケースも複数見受けられた。結果、初めから色彩の決まっている通常の色画用紙の方が表現の自由度が高く、満足感を感じている者も、少数派ではあるが存在した。また、シンプルな表現を望むがゆえに通常の色画用紙でなければならないという意見や、素材の制作過程は楽しかったがそれを作品化する上ではやはり表現の幅を狭めることに繋がったケースもあり、改めて素材から作る造形活動において、手作りの素材を活かした制作とその一連の繋がりを制作者目線で再考し、表現にすることの魅力をわかりやすく伝えていくことが求められるだろう。

註

- 1) デカルコマニーは、画用紙を2つ折りにし、片方に筆で絵の具をたらし、もう一方に写し取る方法である。若元澄男 編 阿比留時彦 著 (2000)『図画工作・美術科重要用語 300 の基礎知識』明治図書出版株式会社, p52
- 2) 1929年アメリカのニューヨーク州に生まれ、ドイツで育つ。(中略)グラフィックデザイナーとして活躍。1968年に絵本『1、2、3 どうぶつえんへ』(ボローニャ国際児童図書展グラフィック大賞)を発表して以来、世界中で親しまれる絵本作家となる。  
偕成社「エリックカールスペシャルサイト」  
kaiseisha.co.jp/special/ericcarle/about/  
(2020/1/13 アクセス)
- 3) 偕成社「エリックカールスペシャルサイト」  
同上
- 4) プライバシーの観点から学生情報が表現された部分は、白く覆うことで加工されている。
- 5) 厚生労働省 (2018)『保育所保育指針解説』株式会社フレーベル館, pp278-281  
文部科学省 (2018)『幼稚園教育要領解説』株式会社フレーベル館, pp244-247  
内閣府 文部科学省 厚生労働省 (2018)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』株式会社フレーベル館, pp298-301 参照

図版典拠

図1, 2, 3, 4, 5 筆者作図

表1. 筆者撮影 (筆者による作品)

表2. 筆者撮影 (学生による作品: 著作者の許可を得たうえで掲載している。)

## A study of art activities performed during the making of modeling materials

Shuhei ONO

### **【abstract】**

This study suggests the practice of making art using handmade construction paper to discover art activities possible when creating modeling materials. I conducted a questionnaire survey about the practice of handmade construction paper and common construction papers. Subsequently, I found that the making of modeling materials offered students motivation and opportunities for self-expression.

### **【key words】**

Art activities , modeling material , construction paper